

4 年ぶりの麻生を語る太田新区長

麻生市民交流館「やまゆり」と市民の運営に期待

4 月に就任された太田直（おおたすなお）区長は平成 12 年から 14 年にかけて区政推進課（現地域振興課）課長として多くの事業に関わっていらっしゃいました。そこで麻生まちづくり市民の会（平成 15 年から）とその前身である麻生まちづくり会議の活動を軸に“麻生のまちづくり”について語っていただきました。



立場が違う人への思いやりを

Q1 約 4 年ぶりの麻生に接してのご感想を

（区長）これまでもときどき訪れていたのですが、ある程度わかってはいましたが、麻生の変貌ぶりには驚きました。昭和音大の開校によって 1500 人の学生が新風を運んでくれています。また、アートセンターは 10 月、新百合ヶ丘駅舎を来年 2 月に完成予定です。万福寺やはるひ野は住宅地として一新しました。変わっていないのは、区民の方たち。歓迎会をしていただいた時にも三分の一は知っている方たちでした。区内を回ってわかったことは地区によって抱える問題が異なるという

こと。高齢化の問題に直面している百合丘や白山など昔つくられた街と大気汚染問題に巻き込まれている新しい街はるひ野を見ればよくわかります。まちづくりを考える時のキーポイントは 安全性 利便性 快適性ですが、世代によってその優先度が変わります。そのバランスをどのように取っていくのか、自分とは違う立場の人、違った世代の人を思いやること、“折り合い”をつける知恵が市民の皆さんにも求められているのではないのでしょうか。

役割は『支援』

Q2 平成 12 年に、市民とまちづくり会議と行政とで籠口ノ池公園をモデルとした協働型事業（注）を立ち上げました。この事業を通して市民の会につながるまちづくり会議の役割が明確になったようにおもいますが。

（区長）まちづくり会議の役割として、まちの主体者である住民の皆さんを支援する役割を果たしたこと。また籠口ノ池公園をモデル地区として緑陰型公園管理のノウハウを築いたという点で評価されます。市民と行政の関係でいえば 市民の公園管理が可能か 可能とすれば行政はどのような支援が必要なのかがわかりました。

「協働」のこれからについて

Q3 協働型の事業には当初は音楽祭などイベント系が多かったのですが、その後新百合ヶ丘駅南口ペDESTリアンデッキ補修工事や地区カルテブ

くりなど、まちづくり系の事業が増えました。その一部がここでとり上げているものです。もうひとつ市民発意・市民提案型の事業も考えられますが。

(区長)「自然エネルギー活用促進事業」が好例だと思います。ただし市民提案が実現する前提として行政計画に提案の課題が含まれている必要があります。この場合もそうでした。

Q4 これまで多くの事業が行政との協働で行われてきていますが、今考えなくてはいけないことは？

(区長)「協働」について市民と行政が共通の認識で事業を展開していく必要があり、現在「協働型事業のルールづくり」が検討されています。

市民の会、他組織との連携が鍵

Q5 まちづくり会議スタート時から数えて今年度市民の会は8年目になります。その間の状況の変化により、改めて市民の会の方向性の検討が必要なのではないでしょうか。

(区長)まちづくり会議当時には中間支援組織としての4つの活動支援(場、資金、人材、情報)が想定されていました。その後かわさき市民活動センターが開設され、活動の場や資金の提供(助成金)を開始、4月には麻生市民交流館やまゆりが開館し、麻生区としての活動の場の拠点ができました。同じような役割を持つ組織とどう連携するのか、市民と行政がいっしょに知恵を絞らなければならぬところだと思っています。

Q6 今の麻生区で誇れることは何でしょうか？

(区長)「やまゆり」という施設とその運営に市民組織があたるということでしょう。区役所が、外部に所有する市民活動支援の拠点は麻生区にしかありません。また運営主体の活動の基礎となるのは5年にわたる区民活動支援ルーム自主運営の実績です。そのノウハウを継承していけば基礎づくりは大丈夫でしょう。そして市民ならではの知恵とパワーを結集して「やまゆり」の良さを活かしてほしいと思っています。

(ありがとうございました)

(注)防犯上深刻な問題を抱えた籠口ノ池(ろぐちのいけ)公園周辺住民がまちづくり会議に傍聴にこられたことから、周辺住民・まちづくり会議・行政とで構成する「麻生区内緑陰型公園管理・維持運営委員会」が立ち上がりました。籠口ノ池公園は広大なため、以前から複数の周辺自治会が独自に清掃していましたが、お互いに知りませんでした。この事業をきっかけに交流が続いているとのこと。

平成19年度麻生まちづくり市民の会会員総会報告



平成19年5月26日午後1時半より、麻生市民交流館やまゆりにて、平成19年度麻生まちづくり市民の会会員総会を開催。19年度の市民の会会員は支援部会27名推進部会41名の計68名でスタートしました。総会成立宣言の後、会長挨拶に続いて新任の太田直新区長より挨拶があり、議事、新役員の紹介が行われ一部が終了。なお役員改選については推薦委員会で話し合われた結果、二期目の2年目ということで継続を基本としたことが冒頭に説明があり了承されました。第二部は各部会、第三部は運営委員会、役員会が行われました。

今後の予定(どなたでも傍聴できます)

まちづくり市民の会運営委員会:7月9日(月)18時30分から
市民活動支援部会:7月4日(水)18時00分から
まちづくり推進部会:7月2日(月)18時30分から

市民活動支援部会

市民活動支援相談窓口小委員会

「相談窓口」では、先に市民活動団体にアンケート調査を依頼しましたが、回答のあった団体に、団体をPRする資料(例えば、会則、会報、年間行事予定表、行事写真、掲載記事など)の提供をお願いしました。やまゆりへの期待が大きく、折角言ってきてくれたのだからなんとかするよ、との声が返ってきたくらいです。6月6日にはやまゆり登録団体にもお願いしました。

講座企画運営小委員会

「講座企画運営」では5月12日(土)、地域デビューへの招待状、第1回「地域デビューしよう」を開催しました。この講座に、団塊の世代を中心とした29団体32名が参加、会場はこのたびオープンした「やまゆり」で、活気に満ちた交流は、地域デビューへの第一歩になったと思われます。(4面に関連記事)

まちづくり推進部会

麻生まちづくり学校運営小委員会

まちの安全度点検、誰もが救命活動!まちづくり学校では本年度前半は昨年度に引続きを防災をテーマに講座を設け受講生を募集した。本年度は、受講者の方々が地元に戻ってまちの安全度を具体的にチェックできるような防災地図の作り方と一人でも命を救えるように救急救命法を学びます。公募期間は6月で終了したが関心のある方は地域振興課(tel: 965-5116)に照会してください。時間は毎回13時30分~16時30分。

まちづくり学校受講生募集

第1回: 7月22日(日)(やまゆり2階)

第1回は昨年度受講した方と今回から新しく受講した方の双方に役立つガイダンスから始める。都市防災最新情報(特に木造住宅の耐震化の補助制度について)、地域の防災地図づくりの事前講義。

第2回: 8月18日(土)(麻生消防署)

新しい救急救命講習。昨年度はプロの模範動作を見学するだけに終わってしまった救急救命法を実習する。三角巾の使い方なども実習。(修了者には講習認定証を発行)

第3回: 9月15日(土)(やまゆり2階)

グループに分れ外に出て防災地図づくりを実習

第4回: 10月20日(土)(やまゆり2階)

都市インフラ(電力ガス、上水道下水道、通信)の防災について講義。まとめのグループディスカッション

地域まちづくり支援小委員会

新年度(平成19年度)に入り、新メンバーも加わり、第2回の委員会が6月9日、「やまゆり」で開かれました。今年の目標は、昨年から引続き町会・自治会との対話を行い、速やかに推進モデル地区を選定することです。委員会は、大テーマである「安全、安心なま

ちづくり」の「防災」を中心に据えて、地区市民レベルからの課題、要望を取り上げ、自主性や自治を助長出来るように支援し、「まちづくり学校」とも連携し、専門的な知識・情報を町会、自治会へ橋渡しする役目を担います。このモデル地区の重点的実践展開によって、住民一人ひとりが構成員となり、その地区オリジナルの「防災対策」を作ることをめざします。

落書き消し小委員会

「あさお落書き消し隊」に2町会より出前依頼があり



ました。4月21日朝9時より岡上西町会。町会からは23名が参加。和光大学の入り口に通じる道路のガードレールを中心に「消し方」の簡単な説明の後、早

速グループに分かれて作業を開始。見る見る内に落書きが消えていくので、町会の方々は目を丸くしていました。消し隊は1時間ほど一緒に作業した後、溶剤を分けてあげ引き上げました。5月11日朝9時半より五力田見晴台公園のあずま屋(木製)を中心に、北部公園事務所からも応援を頂き、町会の皆さんと作業をしました。市民の会の存在意義が「中間支援組織であること」にあるならば「出前落書き消し隊」こそ地域と行政の橋渡しを行い、まちづくりに励む理想的な存在と言えるのではないのでしょうか。

地域通貨小委員会

昨年11月に企画審査を経てスタートを切りました。まずは先進事例から学びました。地域通貨はコミュニティづくりにも有効です。比較的大掛かりなわりには少人数で運営している実例もありました。商店街の活性化と地域の繋がりづくりを模索しているケース、行政主体で発行運営しているケースなど学びました。

では麻生に最もふさわしい地域通貨とは?現在のテーマで検討しています。

町会・自治会などの範囲でボランティアをやりたい人とやって欲しい人を繋いだり、農家と消費者を繋いだり、公園の維持管理にこれを応用したり、防犯パトロールや防災に利用したりできます。

いろんな活用方法があります。いろんな要望に対応できる通貨はどうあるべきか?担う人材の育成は?協力団体への説明・協力要請は?などこれから検討しなければなりません。11月にはフォーラムを開催して検討結果を報告する計画です。

講座「地域デビューへの招待状」

第1回『地域デビューしよう!』を開催しました



5月12日「やまゆり」で市民活動団体とこれから地域で何かをしようという方たちの“出会いの場”を目的とした講座が市民活動支援部会の主催で開催されました。玄関の立て看板を目にして訪れた区民の方も何人かいらっしゃいました。

1部はすでに市民活動で活躍している先輩市民講師の体験談と講師のお話。2部は新人、先輩が自由に意見交換するワークショップ。初参加のみなさんは、このワークショップですっかりうちとけていました。休憩時には29団体のパネル展示（写真）を見ながら質問したり、日頃多忙な団体同士が情報交換したりのなごやかな交流の光景がそこかしこで見られました。

この日幸せな出会いに恵まれた参加者も数名おられ、2回目での報告が楽しみです。

第2回 『地域デビューできましたか?』

日時:

7月21日(土) 12:30~17:00

会場:

麻生市民交流館やまゆり

申し込み・問い合わせ先:

地域振興課(電話) 965-5116

いろいろな交流、ふれあいの場に オープンして2ヵ月経た「やまゆり」

みなさんにまずは知っていただく、来ていただくとうと9時30分の開館と同時に玄関のドアが開放されサロンの窓やカーテンも室内が見えるように開けられます。通りすがりの方が「中を見せてください」と立ち寄りられこともあります。

“活動の場”のニーズの高さは支援ルームの頃にすでに実証されていましたが、6月現在の登録団体は早くも270を超えており、あらためて麻生区における市民活動の元気なことには驚かされます。



オープン当初から乳幼児連れのママたちのグループが複数登録し、子育て世代の交流の場(写真)

として積極的に活動しています。

また隣接する公園で遊んだ母子連れのグループが来館、子どもたちはサロンのキッズコーナーで、ママたちは傍らでひと休みしながら会話を楽しむ、そんなほほえましい光景も目にします。

印刷の利用料金は製版が1枚50円、印刷が20枚で10円と安価なこともあり、4~5月の総会シーズンの印刷室は活況を見せていました。

ボランティアで日常業務を担当している運営スタッフは37名。交代で真剣に対応しています。やまゆりで繰り広げられる「人と人とのふれあい交流」はこれからさまざまなかたち・場面で展開されていくことでしょう。たのしみですね。

編集後記

5月26日、まちづくり市民の会総会が行われました。平成19年度は第2期の2年目として、継続中の企画や新規企画の具体的な活動がスタートします。今後についても市民活動の中間支援組織として多くの区民を巻き込んで麻生区が住みよいまちになるよう活動に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いたします。(OY)